

## 花巻ファーマー

## 地域を生かしたい 二足の草鞋で挑む農業



株式会社スリーエー  
代表取締役  
**押切 裕 さん**  
(東十二丁目 60歳)

東十二丁目を中心に、市内外に農地を持つ株式会社スリーエー代表取締役の押切裕さん。水稲ダイズ、小麦といった穀物のほか、タマネギやアスパラガス、ピーマンなどの野菜も栽培しています。

市内の農家に生まれた押切さん。高校卒業後に関東で自動車販売店を経営していましたが、平成9年にUターンし、北上市で自動車販売店を始めました。

「自分が農業をするとは思っていなかった」ものの、体調を崩した親を継ぎ、平成28年に就農。「どうせやるなら中途半端にはしたくない」と、平成29年に法人化する

規模を拡大していきま

農業をするかたわら、現在も自動車販売店を経営。自動車の知識を生かし、農機を自分でメンテナンスできるのが強みです。

「じつとしてるのが苦手な性分。農業は日々勉強で、新しいことをたくさん知れるのが面白い」とほほ笑む押切さん。その言葉どおり、アワの新品種「いわてあわこがね」の無農薬栽培や、機械を新規導入し種からタマネギを栽培するなど、日々チャレンジの幅を広げています。



収穫時期を迎えたアスパラガス。露地とハウスで栽培

## 市民生活コーナー

公的機関を名乗る不審電話に注意！

## ■どんなトラブルがあるの？

○自宅の固定電話に総務省と名乗る電話があり「2時間後に電話が使えなくなる。オペレーターと話すには1番を押すように」と自動音声アナウンスが流れたため不審に思い電話を切った。

「+」から始まる番号だった○警察を名乗る電話があり「あなたに犯罪の容疑が

## ■注意することは？

○公的機関などを名乗る電話で個人情報聞きだす手口が確認されています。自動音声ガイダンスで電話回線の利用停止を案内することはないので、応じないよう

## ■困った時は？

○新館市民生活総合相談センター(☎41-3550)へ

にしましょう。「+」から始まる番号は国際電話番号です。不審な場合は情報を伝えな

○実際の発信元と異なる電話番号を、相手側に表示させる機能があります。不審な電話があった場合は、一度電話を切り、不安な場合は相手の電話番号を調べてみ

○新館市民生活総合相談センター(☎41-3550)へ

## 広げよう活動の輪

## 市民活動団体紹介

郷土の偉人を後世に伝える  
淵澤能恵を顕彰する会

石鳥谷町関口に生まれ、韓国女子教育の基礎を築いた女性・淵澤能恵(1850〜1936)。その功績と生涯を伝承するため、平成16年に設立されたのが淵澤能恵を顕彰する会です。

主な活動として、石鳥谷図書館入口にある淵澤能恵記念碑での碑前祭および淵澤家の墓での墓前祭、能恵に関する勉強会を行っています。このほか、昨年は同会の創立20周年記念誌を作成。渡米や女学校での勤務を経て、55歳で韓国に渡り女子教育に尽力した能恵の生涯をまとめました。本年は石鳥谷図書館の企画展へ資料提供も行う予定です。



▲例年開催している墓前祭



▲市川会長(写真右)と、20周年記念誌を編集した同会の菅原得之さん

◎石鳥谷図書館図書企画展「淵澤能恵展―韓国女子教育の母―」  
■会期：7月2日(水)〜31日(木)

【問い合わせ】  
淵澤能恵を顕彰する会  
会長 市川<sup>のぼる</sup>さん  
(☎47-2332)

\*同会では会員を募集中です。興味のある人は右記までご連絡ください

## 健康コラム

## 悪化しやすい 若い世代の歯周病

10代〜30代の若い年代で発症する歯周病は、通常の歯周病よりも進行が早く、歯周組織や骨の破壊が急速に進むなど、重症化しやすいのが特徴です。原因は、細菌感染や遺伝的要因、免疫機能の低下などが強く関係していると考えられています。



初期症状として、歯みがきの際に歯肉からの出血や、歯肉の腫れがありますが、この段階では痛みが少なく気づくことが難しいです。放置すると歯肉の炎症が悪化するため、毎日の丁寧な口腔ケアと定期的な歯科医院でのチェックを受けて、健康な歯と歯肉を維持することを心掛けましょう。

## ＜歯周病の予防方法＞

- 普段の歯みがきで歯に付いている歯垢を取り除き、歯垢を蓄積させない
- 定期的に歯科健診を受ける
- 歯科医院でクリーニングを受ける。歯の表面をツルツルに整えられ、普段の歯みがきでの磨き残しを少なくすることができる
- 喫煙は毛細血管の収縮を起こし歯周病を悪化させやすいため、禁煙を心掛ける

【問い合わせ】健康づくり課(☎41-3608)

いいトッポ発見!  
地域おこし協力隊

## 運命を変えるワイン

-ワインを中心とした花巻ブランドの  
情報発信・プロモーション担当 酒本<sup>さかもと</sup>愛美-

16年過ごした東京から花巻にUターンし、はや2カ月。ネオンに代わり、窓越しには青く輝く奥羽山脈。夜空を見上げれば燦然と輝く星。昔は見過ごしていた美しい景色に心が潤う日々です。

さて、活動のテーマが「ワイン」な理由、それは大迫のエーデルワイン「カベルネ・フラン2021」との出会いがきっかけです。カベルネ・フランはワイン用の黒ブドウ品種の一つ。試飲して一口で恋に落ちました。以来、イベントやブドウ畑にお邪

魔したり、関係者の皆さんからいろいろと教えていただきながら、花巻ワインを取り巻くマーケットをリサーチしています。

昨今「日本ワイン」の注目が高まっていますが、ワイン県といわれる山梨県や、国外からの評価も高い北海道といったワイン産地の中で存在感を高めていくためには、地域単位での連携プロモーションが鍵と考えています。地域の皆さんのお力添えをいただきながら、花巻ワインの魅力を拡散させるプロモーションを企画中です。

これからどうぞよろしくお願いいたします。



◀5月には「山形ワインバル」を訪問しました